

シネマズライフ

2018年6月15日発行 第146号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

たかぎ りおん
貴樹 諒音

【最近のこれはお見事！】

『空飛ぶタイヤ』

ん？なんで空を飛ぶの？と思うが、それだけ映画を見たくなるので、やっぱり名タイトルかと。

Wikipediaを参考にしたりしました。m(_ _)m

【最近のこれはまずいぞー！】

『ウィンチェスターハウス アメリカで最も呪われた屋敷』下の文字列が無駄。

☆今号は『シネマズライフ』146号の再発行です。

映画の風景 日本の風景

※ 東京都 迎賓館赤坂離宮 ※

↑ 迎賓館 赤坂離宮(羽衣の間 舞踏室)



「王様と私」という映画があつた。こんな映画だ。

一九世紀のシャム(タイ)。王室の子供達の教育の為、教師をしてアンナは息子ルイスと共にイギリスからパシフィックへやってきた。しかし、王宮外に住まいを留意するはずだつた契約を反故にするつもりだと知り困惑するが、とりあえず住まいになるという王宮に向かう。

王宮ではシャム王が待つていて、アンナの話も聞かず大勢の夫人達と子供達を紹介。アンナも子供達のかわいらしさにほだされ王宮で生活する事に。夫と親しくなるうちに、ビルマから新しい夫人。夫と親しくなるうちに、ビルマから新しい夫人。夫と親しくなるうちに、ビルマから新しい夫人。

王は知識欲旺盛。王もアンナと言葉を交わすうちに打ち解け、イギリスの脅威にさらされている事でも苦慮しているという王の本音を聞き、近々イギリスの大使が来るのでアンナは西洋式のもてなしを提案。そのもくろみは成功したが、王宮内である事件が起これる。

↑ 迎賓館 赤坂離宮(和風別館)



『王様と私』1956年 アメリカ 監督：ウォルター・ラング 原作：マーガレット・ランドン 出演：ユル・ブリナー デボラ・カーリタ モレノ マーティン・ベンソン

モデルになったラーマ4世はアンナを【気難しい】と思っていたようで、もちろん「シャル・ウィ・ダンス？」もなかった訳で…。

コラム
人に知ってほしいのかわ
知ってほしくないのかわ
と思う件
後編

文書・本もそうだが、「キュビズム」のピカソ、「シュールレアリスム」のシュールレアリズムなの？」と言われてるミロに代表されるほとんど何が描いてあるかわからないものは絵画にも多い(ただし、私だけ？)

世界中で

【読めない文字】
【読み人がいない文字】
【人が理解できない文学】

多くの文書・本・絵画などが多くあり、それらの文書・本・絵画に魅かれる人々もいるから不思議である。

しかし、「読み人がいない文字」は悲しい歴史がありこれは別として「読めない文字」(人が理解できない文学)。これらの作品を見ると作者は「一人に知ってほしいのか?」と思える。ほしくないのか?」と思える。



分かってくれる人だけいれたいといふのは、確かにそれは個人的に楽な生き方なのだろうが、近年・今であるはずの政治家が仲間の政治家と支持者だけがわかっていれたいという考えの政治家が多くなっている気がする。

芸術家のこの考えはいいとして、政治家がそういう考えだと庶民にとっては非常に迷惑な話である。

孤独の末に自作『非現実の王国で』中の少女達だけが友達だっただろうと思う(ヘンリー・ダーガ)は分かる気もするが、

思うにそういう政治家が最近多すぎる気がする。終

↑ 【映画の風景 日本の風景】画像使用サイトですm(_ _)m。 出典：内閣府迎賓館ウェブサイト(和風別館 https://www.geihinkan.go.jp/akasaka/japanese_annex/ 羽衣の間 https://www.geihinkan.go.jp/akasaka/hagoromo_no_ma/)

いつも読んで頂いてありがとうございますm(_ _)m

今月は、諸事情の為発行できません。そこで、以前発行した号を再発行します。

また、この作品、こんな作品、この俳優・女優さんの出演した作品が

載ってる号を読みたいという要望があれば、

cinemaz-life@movie.nifty.jp

にメールかコメントを頂ければ幸いです。

